

行政視察等報告書

令和5年3月9日

長野市議会議長 寺沢 さゆり 様

報告者氏名（代表）
災害対策等調査研究特別委員会
委員長 鈴木 洋一

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察区分 災害対策等調査研究特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 鈴木 洋一、西脇 かおる、佐藤 久美子、青木 敏明、小泉 一真、北澤 哲也、小泉 栄正、倉野 立人
- 3 随行者 書記 一之瀬 貴、奥田 由香里
- 4 視察期間 令和5年1月24日（火）～ 1月25日（水）
- 5 視察先及び視察事項

視察先	視察日時	視察事項
新潟県 三条市	1月24日（火） 午前10時30分	・過去の災害と災害からの復興について ・三条防災ステーション、三条市水防学習館について
信濃川河川 事務所	1月24日（火） 午後1時30分	・信濃川水系下流域での災害の状況について ・大河津分水路の川幅拡幅工事について
新潟県 見附市	1月25日（水） 午前8時50分	・近年の災害と流域治水等の取組について
新潟県長岡 地域振興局	1月25日（水） 午前11時	・流域治水の取組（遊水地）について

6 調査概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1/24 (火)	三条市	<p>○過去の災害と災害からの復興について ○三条防災ステーション、三条市水防学習館について</p> <p>【概要】</p> <p>三条市では平成16年（2004年）7月13日の集中豪雨による、五十嵐川や刈谷田川の破堤により、死者9名、重傷者1名、被害棟数10,935棟、被害世帯7,511世帯の甚大な被害に見舞われた。五十嵐川上流の笹堀ダムでは24時間雨量474ミリメートルを記録した。</p> <p>平成23年（2011年）7月29日災害では笹堀観測所の累計雨量が1,006ミリメートルを超えて、五十嵐川など3河川3カ所が破堤し、死者1名、被害棟数4,228棟、被害世帯2,218人の被害が発生した。</p> <p>三条市水防学習館は、二度の水害を教訓として、市民の防災意識の向上を図る「防災教育の拠点」として平成24年5月に建設された。</p> <p>「水を学ぼう」「水を感じよう」「水を識ろう」をコンセプトに、水害の記録や、非常食等が展示され、さらに、地域情報発信モニターやドア水圧体験、水害降雨再現シアター等の水害疑似体験を通して、小学生から大学生、また、各団体等が水害や防災について学べる施設である。</p> <p>防災ステーションには、排水ポンプ車2台、照明車1台、水防資材等が保管され、災害応急備品等が備蓄されている。隣接してヘリポートが整備されている。</p> <p>【考察】</p> <p>二度の水害の状況が展示されているだけでなく、疑似体験等を通して水防について学べる展示や、災害時現場で活用された消防本部の作戦地図の写真等が展示されている。</p> <p>防災ステーションとしての機能面では、災害時、または、防災基地としての機能装備についてもう少し充実を期待したい。</p> <p>過去の水害から得た教訓を後世に繋ぎ、気候変動等に伴う水害発生リスクを風化させないために、長沼防災ステーションにおいても、常時、体験型学習施設など災害学習が可能な常設型のスペースを充実させることが必要ではないかと考える。</p> <p>開所当時は多くの見学者があり、水防学習の場として機能していたが、昨今は、見学者を呼び込むことが一つの課題であるとのことである。</p> <p>施設前にあるミズベリング三条は、日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトの一つであるが、防災学習と水辺の活用をうまく組み合わせ、市民の防災意識の向上を図っている。施設でバーベキューの食材等を販売し、河川敷広場（交流広場）などの一部でキャンプやバーベキューを楽しんだり、諸室を語学講座に利用するなど人を呼び込むイベント等を行っており、本市でも参考にすべきと感じた。</p>

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1 / 24 (火)	信濃川河川事務所	<p>○信濃川水系下流域での災害の状況について ○大河津分水路の川幅拡幅工事について</p> <p>[概要]</p> <p>信濃川下流域で繰り返し起きてきた水害と大河津分水路の歴史や、現在行われている分水路の拡幅工事の現状を見ることができた。</p> <p>信濃川下流域は、信濃川における沖積平野部に入っの急激な河床勾配の変化や河岸段丘等、水害の発生しやすい地形により洪水被害に見舞われてきた。</p> <p>明治29年7月22日、旧横田村（現燕市横田）の堤防が決壊した「横田切れ」による大水害は、越後平野一体を泥海と化し甚大な被害を及ぼした。また戦後も、信濃川下流域では、昭和53年、平成10年、16年、23年をはじめ、大規模な被害が出た。</p> <p>大河津分水路の工事は明治3年第1期工事が開始され、途中、中断があったが、明治42年第2期工事が再開し大正11年に通水となった。その後、補修工事が実施され2022年8月には、大河津分水路通水100周年と関屋分水路50周年の節目を迎えた。</p> <p>現在実施中の改修事業は、戦後最大規模の洪水でも家屋浸水被害を防止、軽減することを目的とし河口から上流へ延長3.3kmを工事区間に放水路の拡幅を図るものだ。そのために山地部の掘削、第二床固改築、野積橋の河口側への架け替えなどを行う計画となっている。</p> <p>令和元年東日本台風等を受け、事業完了年度が当初の令和14年度から令和20年度へ、また、全体事業費も当初予算から500億強増額され、約1,765億円となる大規模な事業である。</p> <p>また、「にとこみえ〜る館」は、現在工事中の現場に近く、大河津分水路改修事業の工事内容を知るとともに体験することができる施設となっている。</p> <p>[考察]</p> <p>信濃川水系河川整備は、河川法に基づき、平成21年に整備基本方針、平成26年に整備計画が策定され、概ね30年で河川整備を進めるとされ、さらに、令和元年東日本台風災害を受け策定された信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける整備の推進により、千曲川、犀川を含めた信濃川水系の河川整備は、多くの流域住民から大きな期待が寄せられている。</p> <p>国等は常に上下流のバランスと口にするが、プロジェクト、河川整備計画はそれに基づいたものだと認識しているが、上下流のバランスを口実に、上流の整備が遅滞することがないように、計画に則り、着実に事業を進めていくことを強く求めたいところである。</p> <p>にとこみえ〜る館は、大河津分水路改修事業を行っている鹿島・五洋・福田 JV と河川事務所が設置し、一般公開している。こうした情報の開示は市民の理解も得られやすくなるのではないかと感じた。</p> <p>資料館の屋上展望からは現場が一望でき、足元の工事マップと</p>

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1 / 25 (水)	見附市	<p>見比べながら施工の様子を確認でき、またタブレットを活用したAR・VR 体験では工事前から完成への変化の様子を確認できることから、理解しやすいものだ。</p> <p>さらに、上下流域住民にとって、大河津分水路改修工事の早期完了は悲願である一方で、ハード面強化に関する事業の壮大さと道のりの長さを実感させられる場である。</p> <p>予算や工期を再認識することで、ソフト対策への理解と協力の推進につながることに期待を寄せたい。</p> <p>○近年の災害と流域治水等の取組について</p> <p>[概要]</p> <p>見附市を流れる刈谷田川は、信濃川下流域で信濃川に合流する。平成16年7月の7.13水害において、刈谷田川で6箇所の破堤、そのうち5箇所が見附市域であったことに加え、7年後の7.29水害を受け、ハード対策として、刈谷田川ダムの治水機能20%の向上、堤防の嵩上げ、屈曲部改修、そして田んぼダム、遊水地整備が進められた。</p> <p>ソフト対策として、タイムラインによる備え、土砂災害に対する対策、情報の発信、避難誘導のための方策、トイレトレーラーの導入、防災訓練の実施、防災スクールの取り組み等がされている。</p> <p>見附市の田んぼダムは、県営圃場（約1,200ha）の活用も功を奏し、長時間降雨では下流、短時間降雨時は上流への効果が大きい等、農業が持つ多面的機能が発揮されており、新潟大学の調査においても、地の利を活かしての効果の高さが評価されている。</p> <p>[考察]</p> <p>刈谷田川堤防の嵩上げが、0.8mと若干低いイメージだったが、高水敷を1.0m掘削しているとのことで十分な量の確保が出来ていると感じた。</p> <p>屈曲部のショートカット改修は、川の曲がりのきつい箇所を緩やかにすることで水圧を分散するように施されている。これは地域住民からの理解が得られるように感じ、長沼地区にも行われていればと残念でならない。</p> <p>さらに、旧河川部に道の駅（パティオにいがた）を作り、新たな地域発展に繋げていることも評価できる。</p> <p>防災訓練では地域ごとの開催は本市と似ているが、中学校の生徒が多く参加している（参加割合 88.8%）ところは関心の高さを維持させる意味でも大切であり、教育委員会との連携も評価できる。</p> <p>田んぼダム事業については、刈谷田川ダムの貯水量（393万トン）の64%となる252万トンを貯留可能としており、その効果は新潟大学の報告でも裏付けられている。</p> <p>取り組み当初に直面した課題を乗り越え、事業確立に至ったこ</p>

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1 / 25 (水)	新潟県長岡地域 振興局	<p>とは、行政はじめ関係者による治水安全度向上に対する強い危機感からだと受け止めた。</p> <p>さらに、意義のある取り組み事例は、水位調整管の取り替えだ。設置当初の横穴式では、地主の操作が必要であることから田んぼダム実施率は約39%と、機能させるには不十分であった。</p> <p>そこで、地主の操作が不要となるコーン型に入れ替えたことで実施率が約100%となり、床上浸水ゼロとなる等、関係者の柔軟かつ積極的な姿勢、取り組みは、治水対策を進める上で、大いに参考とし、長野市でも醸成しなければならないことだ。</p> <p>長野市を含む千曲川・犀川流域において、見附市スタイルをそのまま採用することは困難かもしれないが、小さくともすべての農地が貯水能力、多面的機能を発揮し、河川への流出量抑制に繋げる取り組みを更に強化する必要があると感じた。</p> <p>また、見附市田んぼダム事業において特筆すべき点として、総事業費は約1,500万円で、実に、刈谷田川ダムの総事業費の0.027%であったことを挙げたい。多額の経費、長年にわたる工期等のこれまでの治水対策における常識を覆す取り組みとなったのではないかと考える。</p> <p>今回の視察では市民意識の醸成や協力なくして防災・減災に強いまちづくりは出来ないことを改めて感じた。</p> <p>○流域治水の取組（遊水地）について</p> <p>[概要]</p> <p>平成16年7月の7. 13水害を受け、平成16年から22年、事業費約34億円が投じられ、刈谷田川における洪水対策（新潟県長岡地域振興局整備部の刈谷田川災害復旧助成事業）として、遊水地整備が進められた。</p> <p>同遊水地は、地役権方式が採用されており、約91町歩（約99ha）、355戸の農地所有者によって、通常は水田としてそれぞれ耕作され、洪水となった際、刈谷田川に流れる水を一時的にため込むことで下流への流量を減少させる機能を担っている。</p> <p>刈谷田遊水地は面積912,000㎡、計画貯水容量は2,347,000㎥で、刈谷田川ダムの貯水量（393万トン）の約60%に値する。</p> <p>遊水地により刈谷田川の水位を約35cm低下させる効果を発揮したとされ、平成23年7月の7. 29水害では、平成16年のような大きな災害から地域を守った。</p> <p>国や県の検証においても、下流域の被害軽減に大きく寄与したと評価された。</p> <p>[考察]</p> <p>遊水地整備によるリスク軽減は、刈谷田川遊水地の実績からその効果は明らかであり、一刻も早い整備完了は、流域住民の生命と財産を守る上で、行政として果たさねばならない責務である。</p> <p>刈谷田川遊水地は地役権を設定した上での整備が行われ、原則、洪水により収穫が見込めなくなった場合でも補償されない。</p>

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
		<p>よって刈谷田川遊水地では NOSAI 等の保険への加入を勧めているとのことだ。</p> <p>農作物補償、農地移転など、当事者が直面している課題もあり、多くの関係者は理想と現実の間で思いは交錯している、と受け止めている。</p> <p>地権者及び耕作者が耕作放棄せず遊水地内で安心して営農を続けることができるよう検討すべきと考える。</p> <p>また、営農が維持されることが遊水地の治水機能を確保することにも繋がることから、遊水地内の地権者及び耕作者の方々と協力し、今後も継続的に遊水地の維持管理を行っていけるよう取り組まれない。</p> <p>遊水地整備は、それぞれ地域に賛否さまざまな意見、考え方があがるが、毎年のように起こり得る記録的な大雨、大型化している台風上陸において、地域を守り、安全性がより高まることから、本市は今以上に何ができ、何をしなければならないのか等、今こそ整備に向け、主体的かつ能動的に動かなければならないのではないかと。</p> <p>篠ノ井塩崎に計画されている遊水地整備における事業進捗管理、さらに、その後の維持管理等において、本市には一定の責任がある。整備に向け、地権者アンケートが実施されているが、今後の整備経過をしっかりと確認したい。</p> <p>地球温暖化が進展し、更なる豪雨災害リスクが高まり、被災地区でもある篠ノ井地区のみならず、水害リスクに不安を募らす多くの流域住民は早期完成に期待を寄せている。</p>